



日常のさりげない姿が 子どもたちをより良い大人へと育む

校長 高橋 実

朝の昇降口では、しっかりあいさつのできる児童が増えてきたように思います。自分からすすんであいさつのできる子、顔を見て会釈のできる子、様々ですがとても気持ちの良い一日のスタートです。

さて、日本全国での「信号機のない横断歩道」一時停止率は17.1%（2019年日本自動車連盟全国実態調査）だそうです。8割以上の車が、横断歩道に歩行者がいても止まらずに通り過ぎるということです。新田小学校の通学路にも、信号機のない横断歩道があります。私も朝や帰りにその横断歩道を渡るのですが、実感としては「ほとんどの車が止まってくれる」ように思います。そして歩行者はドライバーに向かって軽く会釈をして渡る人が多いように思います。道路交通法では横断歩道で歩行者がいるときには一時停止しなければならないとされていますので、車が一時停止するのはマナーではなく法律ですが、全国平均の数字から考えると、この横断歩道での一時停止の実態は、ドライバーと歩行者のコミュニケーションが良くとれているからなのにも思います。

新田小学校に着任したばかりの頃朝の集団登校でこのようなことがありました。信号機のない横断歩道で子どもたちを渡らせたお父様が、止まってくれていた車に深々とお礼のあいさつをしました。遠くからその姿を見ていて、とても感動した覚えがあります。そのお父様にとっては日常的なさりげない行為だったのでしょうが、こうした大人の姿を何気なく見ていた子どもたちが、いつしか心に留めてよき大人に成長していくのだらうと思いました。そして、翌年、別の場所でしたが、信号機のない横断歩道を渡り終えた集団登校の班長さん（6年生）が、止まってくれていた車にしっかりとお辞儀をしている姿に出会いました。とても立派な大人に見えました。そして、今年、午前と午後の分散登校が始まった頃、地域の方から電話がありました。「集団登校で道路を渡るときに、止まってくれた車にお礼の会釈をしていた小学生がいて、とても感動した。」というものでした。これもおそらく子どもたちにとっては特別なものではなく日常的なものだったのでしょう。しかしさりげない姿が身につけているということが、とても大切なように思います。新田小学校の子どもたちの成長ぶりを誇らしく思うとともに、おそらくはこの子どもたちを取り囲む周りの大人たちの日常の行いの素晴らしさが、子どもたちの憧れとなり、より良い大人への成長を育てているのだらうと思いました。

午前中だけではありますが一斉登校が始まって2週間がたち、いよいよ明日からは給食と午後の授業が始まります。一見かつての日常に戻ったように思いますが、新型コロナウイルスの感染リスクがなくなったわけではありません。引き続き、手洗い・うがいの励行、3密にならない工夫と意識付けなどのほか、職員による教室・流し・トイレ等の消毒作業を行い感染防止に努めていきます。ご家庭でも、毎朝の体温測定など健康チェックをよろしくお願いいたします。また、暑い日が増えてきましたのでマスクの取扱い等を含め、熱中症対策も進めてまいります。